

### (3) 保育室の床面積

保育室の床面積を平方メートルの単位か、または畳で何畳かという単位で記入してもらった。畳1畳を1.65平方メートルとして、平方メートルに換算し、平均値を求めた。その結果、平均(標準偏差)は50.1(39.0)平方メートルであった。表4-1に示したように、この保育室で過ごしている子どもの人数の平均が17.4人なので、一人あたり、2.9平方メートルということになる。2歳児の保育室は、一人につき1.98平方メートル以上であればよいので、基準は十分に満たしている。

中央値を算出すると、47.6平方メートルと平均値

よりも小さな値であった。また、最小値と最大値をみると、最小値は20平方メートル、最大値は540平方メートルであった。

図4-2は、床面積の分布を示したものである。横軸は10から250平方メートルまでを10平方メートルごと、250から300平方メートルと300平方メートル以上は100平方メートルごとに示している。40平方メートル(30~40平方メートル)が最も多く、右(広い面積側)に裾野が長くなっている。200平方メートル以上の園は、225、300、540平方メートルの3園であった。

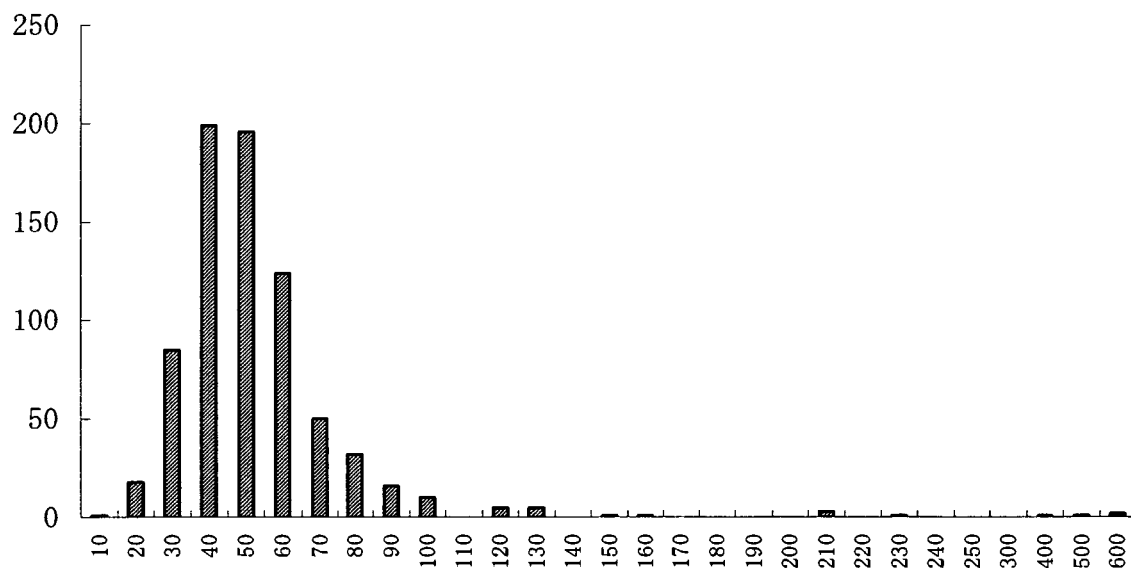


図4-2 床面積の分布

(4) 保育室の床の上の備品

図4-3は、保育室の床の上に置いてある備品（いつも床の上に置いてあるもの）として選ばれた割合を、高い順に示したものである。子どもの個人用ロッカー、食事用机椅子、遊具の収納棚、ピアノ・オルガンの4つが60%を超えており、6割以上の保育所ではこれらの備品が床を占有していると言える。

その他としてあげられた備品には、ストーブなどの暖房器具、空気清浄機・加湿器など空調器具、手洗い場・流し台・配膳台・ゴミ箱など水回りや食事に関する備品、絵本棚・おもちゃの棚など遊具や玩具教材等の収納棚、滑り台・ままごと用流し台など遊具や遊びの空間、畳・衝立など空間に関するものなどがあつた。

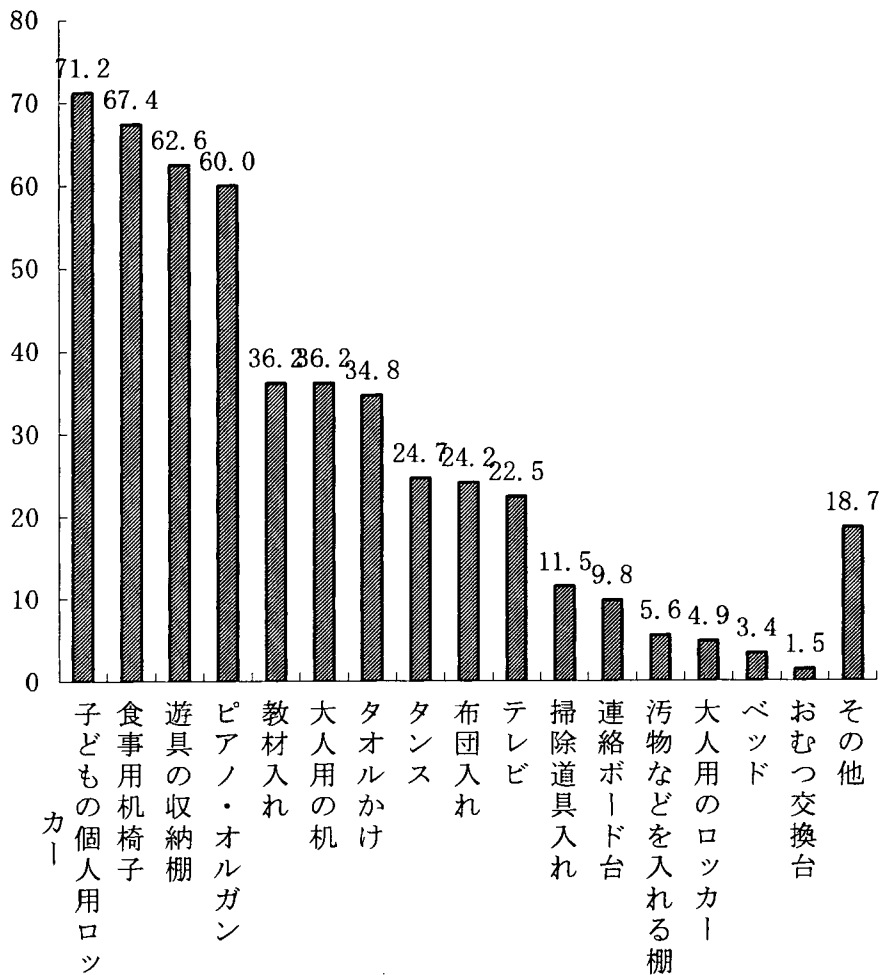


図4-3 保育室の床の上にある備品 (%)

備品が占有する床面積が、およそ何平方メートルか、または畳何畳分かを書いてもらった。先と同様に、畳1畳を1.65平方メートルとして、平方メートルに換算した。そして平均(標準偏差)を算出すると、8.9(14.6)平方メートルであった(N=588)。

平均値と標準偏差を比較すると、標準偏差の値がかなり大きい。そこで分布を調べてみた。図4-4にそのヒストグラムを示す。横軸は2から60平方メートルまでの2平方メートルのステップ、その後、60~80、80~100、100~200、200~300である。こ

の図から、10平方メートル程度までの保育所が多いが、60平方メートル以上を備品が占めている保育所もあることが分かる。60平方メートル以上は、60、68.8、79.3、80、90.2、96、116、249.4であった。

保育室の床面積の平均は50.1平方メートルであった。この値から、今回算出した平均値8.9平方メートルを引くと、41.1平方メートルになる。この値を、この保育室で主に生活する子どもの平均人数17.4で割ると、24平方メートルとなった。

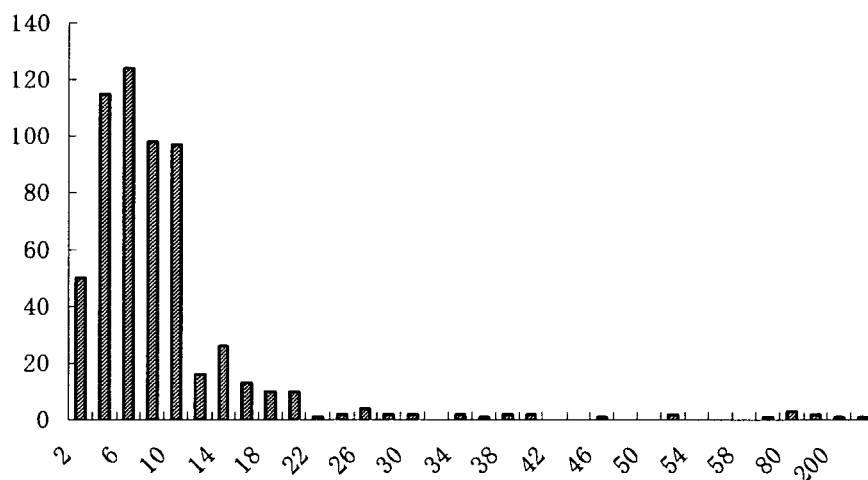


図4-4 備品が占有している床面積の分布

(5) 保育室が狭いと感じる時間帯

「保育をされていて、この保育室が狭い（もっと広いほうがよい）と感じる時間帯（活動）はありますか」という設問に、「はい」または「いいえ」を選択してもらったところ、「はい」は57.0%であった（無回答が64票あったため、N=759）。過半数の園が狭さを感じている。

「はい」と答えた方に、そのように感じる時間帯すべてに○をつけてもらった結果が表4-4である。割合の高い順に並べてある。最もよく選ばれた時間帯（活動）は、午前の遊びであり、3分の1の園で狭いと感じられていた。睡眠と午後の遊び、食事の時間帯も20%以上の園では狭いと感じられており、これらの時間帯には保育士は、子どもに十分な対応ができていないと判断していた。

「その他」の時間帯（活動）としては、次の3つのような内容が記載されていた。①食事から午睡までの時間帯（食事の場所と午睡の場所が同じなので、すべて片付けてからでない）と布団が敷きにくい／食事の後、同じところに布団を敷くのでその時に狭く

感じる／食事と午睡が同時に同一部屋で行う部屋がほしい／食事中の子、食べ終わった子がいる時間帯／食事→着脱→午睡の布団と、同時にスペースが必要な時間帯／食事、着脱、午睡準備のため布団を敷くときに感じます。子どもの動きもバラバラになるので、もう少し広いといいなと思います／食後、午睡準備時間／食後／布団を敷くスペースとそれまで静かに過ごすスペース／昼寝前の準備、着替えの時／昼寝準備で布団を敷き、食事の配膳をしている間、遊んで過ごせるスペースが保育室内には無いので、その時間帯過ごす場所を工夫しなくてはならない。②行事の時（行事の時／保育参加や地域事業で大人の人数が増えた時／行事など園全体の行事に参加する時／特例保育時、土曜日人数が多いとき／土曜日の乳幼児合同時間帯）。③特別な活動の時（コーナーに分かれた活動等／活動的な遊びやゲームをするとき／運動遊びやリトミックなど／年齢別活動をする時／異年齢で活動が違うとき／自由遊び中に熱など体調を崩した子どもを布団で横にならせたとき）。

表4-4 2歳児の保育室が狭いと感じる時間帯（活動）として選ばれた割合（%）

時間帯（活動）	割合
2. 午前の遊び	35.2
5. 睡眠	24.9
3. 午後の遊び	22.1
4. 食事（授乳を含む）	21.5
7. 着脱	13.1
1. 朝の受け入れ時	8.5
6. 排泄（オムツ交換を含む）	8.3
9. 延長保育時	6.8
8. 清潔（沐浴、清拭等）	4.4
10. 引き渡し時	3.3
11. その他	3.6

(6) 保育室が今より広くなった時に子どもや保育士の行動に生じる変化

表4-5は、「この保育室が今より広くなるとすれば、子どもや保育士の行動にどのような変化が生じると思いますか」という聞き方で、以下のようになると思うか、変わらないと思うか、むしろ項目とは逆のようになると思うかを判断してもらった結果を示したものである。ランダムに反応すると33.3%になる。そこでこの値を期待値として、実測値(表の値)

と期待値との差を検定した。そして期待値よりも有意 ( $p<05$ ) に大きな値はゴシック体で示し、有意に小さな値は文字サイズを小さくした。

部屋が広くなると、子どもについては「身体的活動がしやすい」「睡眠など適切な休息をとれる」「集中して遊ぶようになる」「情緒が安定する」状態、保育士については「玩具・遊具など物的環境を管理しやすい」「遊びの援助がしやすい」「睡眠の援助がしやすい」状態になると判断された。

表4-5 保育室が今より広くなった時に生じる変化 (%)

A群 子どもについて	こうなる	変わらない	逆になる
1. 食事を楽しむことができる	30.4	<b>65.7</b>	3.9
2. 睡眠など適切な休息をとれる	<b>41.4</b>	<b>55.8</b>	2.8
3. 清潔を保つ行動が増える	25.5	<b>71.7</b>	2.8
4. 身体的活動がしやすい	<b>75.2</b>	22.9	1.9
5. 聞く見る触れるなど感覚を使う機会が増える	32.3	<b>65.8</b>	2.0
6. 言葉(喃語を含む)を発しやすくなる	10.8	<b>84.8</b>	4.4
7. 周囲の人やものに興味・関心をもつ	22.6	<b>74.1</b>	3.2
8. 情緒が安定する	<b>37.8</b>	<b>55.2</b>	7.0
9. 機嫌がよくなる	33.9	<b>62.9</b>	3.2
10. 集中して遊ぶようになる	<b>38.0</b>	<b>53.8</b>	8.2
11. 怪我が多くなる	21.4	<b>56.8</b>	21.7
12. 子どもが疲れにくくなる	15.5	<b>75.5</b>	9.0
13. 子ども同士のかかわりが多くなる	19.0	<b>73.7</b>	7.4
14. 子どものかみつきが少なくなる	32.9	<b>63.6</b>	3.5
15. 保育室から出ていかない	18.7	<b>78.7</b>	2.5
16. 保育士への関わりを多く求める	7.2	<b>87.4</b>	5.4
B群 保育士について			
1. 健康状態の把握がしやすい	9.3	<b>79.0</b>	11.7
2. スキンシップをとりやすい	17.2	<b>71.3</b>	11.4
3. 排泄の援助がしやすい	25.2	<b>65.8</b>	9.1
4. 食事の援助がしやすい	36.6	<b>57.5</b>	5.9
5. 睡眠の援助がしやすい	<b>37.3</b>	<b>56.5</b>	6.3
6. 清潔の援助がしやすい	25.2	<b>67.7</b>	7.0
7. 着脱の援助がしやすい	36.4	<b>57.2</b>	6.3
8. 遊びの援助がしやすい	<b>50.9</b>	<b>42.7</b>	6.4
9. 言葉かけがしやすい	13.9	<b>72.7</b>	13.4
10. 保育士同士の会話がしやすい	6.1	<b>80.8</b>	13.1
11. 温度湿度の管理がしやすい	8.4	<b>66.9</b>	24.7
12. 玩具・遊具など物的環境を管理しやすい	<b>52.2</b>	<b>38.3</b>	9.5
13. 安全管理をしやすい	30.7	<b>49.0</b>	20.3
14. 保育士のストレスがたまらない	30.6	<b>64.6</b>	4.8
15. 保育士が疲れにくくなる	20.0	<b>71.6</b>	8.4
16. 保育士の口調が柔らかくなる	16.1	<b>77.7</b>	6.2
17. 保育士が移動しやすくなる	29.6	<b>60.3</b>	10.2
18. 保育室以外で保育する機会が少なくなる	22.8	<b>73.1</b>	4.1

(7) 保育室が広いと感じる時間帯

「保育をしながら、この保育室が広い（もっと狭いほうがよい）と感じる時間帯（活動）はありますか」という設問に、「はい」または「いいえ」を選択してもらったところ、「はい」は7.5%であった（無回答が85票あったため、N=738）。広いとはあまり感じていないといえる。

「はい」と答えた方に、そのように感じる時間帯

すべてに○をつけてもらった結果が表4-6である。割合の高い順に並べてある。40%以上の時間帯（活動）は「朝の受け入れ時」だけであった。「午前の遊び」、「午後の遊び」、「着脱」の時間帯も30%を超えていた。母数がそれほど多くないので、園による違いがあると考えられるが、全員に目が行き届くことが必要な時間帯であるとは言えよう。

表4-6 この保育室が広いと感じる時間帯（活動）として選ばれた割合（%）

時間帯（活動）	割合
1. 朝の受け入れ時	47.3
2. 午前の遊び	38.2
3. 午後の遊び	30.9
7. 着脱	30.9
9. 延長保育時	25.5
5. 睡眠	23.6
10. 引き渡し時	20.0
4. 食事（授乳を含む）	10.9
8. 清潔（沐浴、清拭等）	7.3
6. 排泄（オムツ交換を含む）	5.5
11. その他	7.3

(8) 保育室が今より狭くなった時に子どもや保育士の行動に生じる変化

表4-7は、「この保育室が今より狭くなるとすれば、子どもや保育士の行動にどのような変化が生じると思いますか」という聞き方で、以下のようになると思うか、変わらないと思うか、むしろ項目とは逆のようになると思うかを判断してもらった結果を示したものである。実測値(表の値)と期待値(33.3%)との差を検定し、期待値よりも有意(p<0.05)に大きな値はゴシック体で示し、有意に小さな値は文字サイズを小さくした。

部屋が狭くなると、子どもについては「食事を楽しむことができなくなる」(下線は「逆になる」という結果のため項目の表現を変えたことを示す。以下

同じ)「睡眠など適切な休息をとれなくなる」「清潔を保つ行動が減る」「身体的活動がしにくくなる」「聞く見る触れるなど感覚を使う機会が減る」「情緒が不安定になる」「機嫌が悪くなる」「集中して遊ばなくなる」「怪我が多くなる」「子どもが疲れやすくなる」「子どものかみつきが多くなる」「保育室から出て行く」という状態になると判断された。保育士については、「排泄・食事・睡眠・清潔・着脱・遊びの援助がしにくくなる」「玩具・遊具など物的環境や安全管理がしにくくなる」「ストレスがたまる」「疲れやすくなる」「口調が激しくなる」「移動がしにくくなる」「保育室以外で保育をする機会が増える」という状態になると判断された。

表4-7 保育室が今より狭くなった時に生じる変化 (%)

A群 子どもについて	こうなる	変わらない	逆になる
1. 食事を楽しむことができる	1.6	34.0	<b>64.4</b>
2. 睡眠など適切な休息をとれる	1.6	26.0	<b>72.4</b>
3. 清潔を保つ行動が増える	3.5	<b>53.7</b>	<b>42.8</b>
4. 身体的活動がしやすい	2.0	11.8	<b>86.2</b>
5. 聞く見る触れるなど感覚を使う機会が増える	2.8	<b>51.3</b>	<b>45.9</b>
6. 言葉(喃語を含む)を発しやすくなる	2.5	<b>72.6</b>	24.9
7. 周囲の人やものに興味・関心をもつ	4.5	<b>64.4</b>	31.1
8. 情緒が安定する	3.5	31.4	<b>65.1</b>
9. 機嫌がよくなる	1.6	32.8	<b>65.7</b>
10. 集中して遊ぶようになる	4.8	34.6	<b>60.6</b>
11. 怪我が多くなる	<b>42.7</b>	27.5	29.8
12. 子どもが疲れにくくなる	7.4	<b>50.0</b>	<b>42.6</b>
13. 子ども同士のかかわりが多くなる	11.6	<b>62.8</b>	25.6
14. 子どものかみつきが少なくなる	6.5	30.3	<b>63.2</b>
15. 保育室から出ていかない	3.0	<b>51.7</b>	<b>45.3</b>
16. 保育士への関わりを多く求める	18.0	<b>68.7</b>	13.2
B群 保育士について			
1. 健康状態の把握がしやすい	8.6	<b>73.5</b>	17.8
2. スキンシップをとりやすい	10.6	<b>65.0</b>	24.3
3. 排泄の援助がしやすい	5.0	<b>53.5</b>	<b>41.5</b>
4. 食事の援助がしやすい	4.1	<b>40.6</b>	<b>55.2</b>
5. 睡眠の援助がしやすい	3.2	<b>41.2</b>	<b>55.7</b>
6. 清潔の援助がしやすい	3.6	<b>56.2</b>	<b>40.2</b>
7. 着脱の援助がしやすい	4.0	<b>43.5</b>	<b>52.4</b>
8. 遊びの援助がしやすい	3.6	33.2	<b>63.2</b>
9. 言葉かけがしやすい	9.5	<b>63.9</b>	26.6
10. 保育士同士の会話がしやすい	8.6	<b>75.8</b>	15.7
11. 温度湿度の管理がしやすい	14.9	<b>65.6</b>	19.5
12. 玩具・遊具など物的環境を管理しやすい	6.3	35.3	<b>58.4</b>
13. 安全管理をしやすい	7.5	<b>40.7</b>	<b>51.9</b>
14. 保育士のストレスがたまらない	4.3	<b>37.4</b>	<b>58.3</b>
15. 保育士が疲れにくくなる	4.2	<b>49.6</b>	<b>46.2</b>
16. 保育士の口調が柔らかくなる	2.6	<b>63.2</b>	34.2
17. 保育士が移動しやすくなる	7.0	<b>50.4</b>	<b>42.6</b>
18. 保育室以外で保育する機会が少なくなる	8.4	<b>38.9</b>	<b>52.7</b>

(9) 保育室の環境の評価

表4-8は、保育室の環境評価について、どのくらいの頻度で話し合いをしているか、またどのくらいの頻度でかえているかについて、選択された割合を示したものである。話し合いの頻度では、「決まっていない」が最も多く、4割以上の保育所がこれを選択した。次に多いのは「月1回程度」であった。2歳児の保育室に関しても、1歳児のそれと同様に、話し合いが不定期にしか行われていない保育所が多く、定期的に行われていても月に1回程度であると言える。

環境をかえる頻度については「決まっていない」が最も多く、約4割の保育所がこれを選択した。保育環境について話し合いをしても、変えられるとは限らない。実際に環境が変わるのは、せいぜい学期

に1度や行事後にかえる程度というのが現状である。

この保育室の現在の広さについて、「今の広さがちょうどよい」「今より広いほうがよい」「今より狭いほうがよい」の中から選んでもらった。その結果、「今の広さがちょうどよい」は50.6%、「今より広いほうがよい」は48.4%、「今より狭いほうがよい」は1.0%であった。また、「今より広いほうがよい」を選んだ保育所に「具体的にあとどのくらい広いほうがよいですか」と尋ねたところ、平均で19.6平方メートル広いほうがよいと判断された(N=288)。さらに、「今より狭いほうがよい」を選んだ保育所に「具体的にあとどのくらい狭いほうがよいですか」と尋ねたところ、平均で24.6平方メートル狭いほうがよいと判断された(N=5)。

表4-8 保育室の環境評価の頻度

	話し合いの頻度	更新の頻度
1. 週1回程度	6.6	1.8
2. 月1回程度	33.8	25.5
3. 2～3月に1回程度	12.0	19.9
4. 3～6か月に1回	4.9	14.3
5. 決まっていない	42.6	38.5



**廊下に置かれている備品**

本稿ではこれまで述べてきた全国調査とは別に、6園のみを対象に行った調査を報告する。

(1) 方法

調査対象は次章に詳細に示す6つの保育所とした。

材料として、図5-1に示すような調査票を作成した。図5-1は0歳児クラス用であるが、1歳児クラス用と2歳児クラス用も用意した(資料参照)。調査は郵送留め置き式で実施した。調査票を郵送し、FAXまたは郵便で返送してもらった。

園名 : \_\_\_\_\_

**廊下等に置かれた備品に関する調査 (0歳児クラス用)**

0歳児クラスの保育室に置きたい備品のうち、保育室内に置くことができずに、廊下(玄関や階段等を含む)に置かれている備品には何がありますか。

下表の選択肢のうち、該当するものすべてに○をつけてください。(複数回答可)

タンス 布団入れ 子どもの個人用ロッカー ベッド タオルかけ 教材入れ 絵本棚 連絡ボード台 おむつ交換台 遊具の収納棚 生き物の飼育ケース(金魚鉢など) 植物(植木鉢や花瓶など)	テーブル ソファ 食食用机椅子(ベビー用ラック等) ピアノ・オルガン テレビ ストープ 掃除道具入れ ゴミ箱 汚物などを入れる棚 大人用の机 大人用の椅子 大人用のロッカー
その他(下欄に具体的にお書きください)	
. . . . . .	

上表の廊下に置かれている備品が占有している床面積は、全部合わせるとどの位ですか?

およそ \_\_\_\_\_ m<sup>2</sup> (または およそ 畳 \_\_\_\_\_ 畳分)

図5-1 廊下等に置かれた備品に関する調査票

(2) 結果

2つの保育所では、廊下に置かれている備品はなかった。表5-1は残り4つの保育所で廊下に置かれている備品を示したものである。これら以外に、B保育所の0・1歳児クラスは子どもの靴箱、2歳児クラスは運動あそび用具、絵画造形材料および用具、子どもの作品類、移動可能な遊具があった。ま

たD保育所では0歳児クラスと1歳児クラスでは棚、2歳児クラスではフックハンガーと柵も廊下に置かれていた。

すべての保育所に共通する備品はなかった。保育所による違いが大きいことがうかがえる。また特定の年齢に共通する備品もなかった。

表5-1 廊下に置かれている備品

	A保育所			B保育所		C保育所			D保育所		
	0歳	1歳	2歳	0・1歳	2歳	0歳	1歳	2歳	0歳	1歳	2歳
ダンス					○						
布団入れ		○			○						
子どもの個人用ロッカー											
ベッド											
タオルかけ					○						
教材入れ											
絵本棚				○					○		
連絡ボード台				○							
おむつ交換台				○							
遊具の収納棚				○	○						
生き物の飼育ケース	○										
植物（植木鉢や花瓶など）	○			○	○						
テーブル		○									
ソファ										○	
食食用机椅子（ベビー用ラック等）				○							
ピアノ・オルガン	○										
テレビ											
ストーブ											
掃除道具入れ		○		○	○						
ゴミ箱						○					
汚物などを入れる棚		○		○	○		○	○			
大人用の机		○		○	○						
大人用の椅子		○		○	○						
大人用のロッカー	○	○		○	○						
備品が占めている面積	12	13		20	25	0.5	0.5	0.5	1.7	2.5	1.7

### 3. 考察

#### 結果のまとめ

本研究で得られた主な結果は次の通りである。

(1) 食事、睡眠、衣服の着脱、遊びなどの活動は、いずれの年齢でも90%以上、保育室内で行われていた。0歳児では排泄も80%以上、その保育室で行われていた。排泄に関しては、区切って他の活動と共有する形で行われている割合が高かった。

(2) 保育室の床面積は、0歳児、1歳児、2歳児の順に50.7、53.5、50.1平方メートルであり、子ども一人あたりの面積にすると、同じ順に、3.9、3.4、2.9平方メートルであった。

(3) 保育室の床の上には様々な備品が常時置かれていた。いずれの年齢でも、食事用の机や椅子、子ども用のロッカー、遊具の収納箱が置かれていることが多かった。これらに加えて、0歳児の保育室にはベッド、2歳児の保育室にはピアノ・オルガンが置かれている割合が高かった。

(4) 上記の常設備品によって、0歳児の保育室では平均9.3、1歳児の保育室では同7.7、2歳児の保育室では同8.9平方メートルの床面積が占められていた。この常設備品が占める床面積は、保育所による違いが非常に大きく、(2)の保育室の平均床面積よりも大きな値を占める保育所も多く見られた。

(5) 約半数の保育所では、保育室が狭い(もっと広い方がよい)と感じる時間帯(活動)があった。0歳児、1歳児、2歳児共に、「午前の遊び」の時間帯をそのように感じていた保育所が多かった。特に0歳児と1歳児では約3分の2の保育所がこの時間帯を狭いと感じていた。保育室が今より広くなると、子どもについては「身体的活動がしやすい」「睡眠など適切な休息をとれる」「集中して遊ぶようになる」「情緒が安定する」状態、保育士については「玩具・遊具など物的環境を管理しやすい」「遊びの援助がしやすい」「睡眠の援助がしやすい」状態になると判断された。

(6) 保育室が広い(もっと狭いほうがよい)と感じる時間帯(活動)が「ある」と答えた保育所は、0歳児で7.2%、1歳児で10.9%、2歳児で7.5%と、それほど多くなかった。「ある」と答えた保育所では、一人一人の子どもに目がいく届く必要がある時間帯を、もっと狭いほうがよいと感じていた。保育室が今より狭くなると、子どもについては「食事を楽し

むことができなくなる」「睡眠など適切な休息をとれなくなる」「清潔を保つ行動が減る」「身体的活動がしにくくなる」「聞く見る触れるなど感覚を使う機会が減る」「情緒が不安定になる」「機嫌が悪くなる」「集中して遊ばなくなる」「怪我が多くなる」「子どもが疲れやすくなる」「子どものかみつきが多くなる」「保育室から出て行く」という状態になると判断された。保育士については、「排泄・食事・睡眠・清潔・着脱・遊びの援助がしにくくなる」「玩具・遊具など物的環境が管理しにくくなる」「安全管理がしにくくなる」「ストレスがたまる」「疲れやすくなる」「口調が激しくなる」「移動がしにくくなる」「保育室以外で保育をする機会が増える」という状態になると判断された。

(7) 保育室の環境を見直すための話し合いは、「月に1回程度」、あるいは「不定期的に(決まっていないうい)なされていた(いずれも4割程度)。しかし保育室の環境をかえる頻度は「決まっていない」が約4割であった。

これらの結果は、次の3つの資料としての意義がある。すなわち、(1)保育室の面積の最低基準を考える資料、(2)保育室の使い方の工夫を促す資料、(3)保育室の設計や常設備品の開発のための資料、としての意義である。以下ではそれぞれについて述べる。

#### 保育室の面積の最低基準を考える資料：規制改革の流れの中で、保育室の面積の最低基準についても、様々な議論が展開されていると聞く。本研究の結果は、最低基準面積の変更、特に狭くすることが、子どもについては12、保育士については8、計20項目もの弊害を生むと多くの保育士が感じていることを示した。すなわち、保育士は、子どもについては

①食事を楽しむことができなくなる、②睡眠など適切な休息をとれなくなる、③清潔を保つ行動が減る、④身体的活動がしにくくなる、⑤聞く見る触れるなど感覚を使う機会が減る、⑥情緒が不安定になる、⑦機嫌が悪くなる、⑧集中して遊ばなくなる、⑨怪我が多くなる、⑩子どもが疲れやすくなる、⑪子どものかみつきが多くなる、⑫保育室から出て行く、保育士については、⑬排泄・食事・睡眠・清潔・着脱・遊びの援助がしにくくなる、⑭玩具・遊具など物的環境管理がしにくくなる、⑮安全管理がしにくくなる、⑯ストレスがたまる、⑰疲れやすくなる、

⑱口調が激しくなる、⑲移動がしにくくなる、⑳保育室以外で保育をする機会が増えるという状態になると判断した。これらはいずれも子どもにとって大きなマイナスである。

**保育室の使い方の工夫を促す資料：**保育室で行う活動には様々なものがある。食事、睡眠、衣服の着脱、遊びなど、保育所で行われる活動のほとんどが、特に乳児や年少の幼児では、保育室の中で行われるといっても過言ではない。しかしながら、そのためのすべての空間を常に確保しておくことは、無理であり、現実的ではない。そこで保育室の使い方を工夫する必要がある。本研究で得られた結果から、次のような使い方の工夫が考えられる。①保育室をいくつかのスペースとして区切らずに使う。区切るとしても、日頃ははずせるカーテンなどを使う。②可動式の備品を準備する。例えば、固定式のベッドではなく、布団や日頃は重ねておける簡易ベッドを利用する。③利用頻度や動線を考えて、廊下にはいくつかの備品を出す。子ども用のタオル掛けや個人ロッカー、遊具の整理棚を廊下に出したり、廊下に押入を作って収納したりしているところもある。

**保育室の設計や常設備品の開発のための資料：**数としてはそれほど多くないと思われるが、地域によっては、保育所が新設されることがある。また地域やその他の事情によっては、保育室が増築されたり、改築されることもある。このような新設や増・改築の際には、本研究の成果が利用できる。すなわち、

子どもが過ごせる実床面積を勘案した上で、新築や増改築をするのである。

7割以上の保育士は、広い保育室では子どもは身体的活動がしやすくなる、逆に狭い保育室では身体的活動がしにくく、睡眠など適切な休息が取りにくくなると考えている。この保育士の考えを活かした新築や増改築時の設計が期待される。具体的には、押入や収納棚などがあらかじめ豊富に埋め込まれた設計が望ましい。

本研究の成果が生かされるもう一つの可能性は、保育にかかる備品等の設計である。例えば、ロフトなどの備品は、保育室を区切るのに使用でき、かつ利用できる空間を広げるものである。可動式のベッドや折りたたみ式の机・椅子なども有効活用が可能である。おもちゃや絵本などをつり下げて収納するためのリフトなどにも夢がある。保育室を子どもにとって豊かな空間にし、保育士にとって保育がしやすい環境にするための備品の設計・提供が、今後、期待される。

#### 4. 結論

本章では、保育環境に関する全国調査の結果を報告した。その結果は、次の3つの資料としての意義がある。すなわち、(1) 保育室の面積の最低基準を考える資料、(2) 保育室の使い方の工夫を促す資料、(3) 保育室の設計や常設備品の開発のための資料、としての意義である。

## 「保育室の環境に関する調査」 アンケート調査についてお願い

平成20年1月24日  
白梅学園大学 民秋 言

皆さまにおかれましては、ますますご健勝のもと、保育にお励みのことと存じます。  
さて、私たちは、この度、厚生労働省から「少子化社会における保育環境のあり方に関する総合研究」（平成19年度厚生科学研究政策科学総合研究事業《政策科学推進研究事業》H19-政策-一般-017）の委託を受けました。  
つきましては、研究の一環として下記のとおりアンケート調査を実施させて頂きたいと存じます。ご多忙の折り恐縮ですが研究主旨をご理解のうえ、ご協力賜りますようお願いいたします。

### 記

#### 研究主旨

本研究は、保育環境のあり方を明らかにするとともに、保育環境のあるべき姿について提言を行おうとするものです。

#### アンケートの目的

上記主旨にそってアンケート調査を実施し、保育所における保育環境の実態を明らかにするとともに、保育室の広さ、子どもの人数、保育室の備品などの違いが保育活動や子どもの育ちにどのような影響を与えるのかを知るための資料とします。

#### 回収と集計

当方所定の封筒にて回収し、内容はコンピュータにより統計処理いたします。園名、個人名など個別的には公表はいたしません。

主任研究者 民秋 言（白梅学園大学）  
西村重稀（仁愛女子短期大学）  
高野 陽（東洋英和女学院大学）  
吉岡眞知子（東大阪大学）  
佐藤牧人（東京国際福祉専門学校）  
成田朋子（名古屋柳城短期大学）  
河野利津子（比治山大学短期大学部）  
清水益治（神戸女子大学）  
佐藤直之（京都女子大学短期大学部）  
千葉武夫（聖和大学短期大学部）  
森 俊之（仁愛女子短期大学）  
川喜田昌代（白梅学園大学）

## アンケート用紙の配付・回収方法について

このアンケートは、0、1、2歳児の保育室の環境についてお尋ねするものです。

### 調査表の構成について

この調査票は、4枚構成になっています。

Aは、保育所に在籍する0、1、2歳児全般のことについてお尋ねします。

Bは、0歳児の保育室についてお尋ねします。

Cは、1歳児の保育室についてお尋ねします。

Dは、2歳児の保育室についてお尋ねします。

### 調査用紙の記入者について

0、1、2歳児の部屋を対象に調査いたします。そのため、主任か、各部屋の責任者の方にご記入をお願いします。年齢ごとではなく混合でクラス編成されている場合は、3つの部屋を選んで、それぞれの部屋の担当者に回答をお願いします。混合クラスで部屋の数に2つ以下の場合は、部屋数の担当者が回答して下さい。

### 回収について

記入されたアンケート用紙を回収用封筒に封入のうえ、同封の返信用封筒にてお送りください。

### 返送の期日

お忙しいところ恐縮ですが、統計処理の都合上平成20年2月25日(月)までに返送してください。

平成 20 年 1 月 15 日

各 位

厚生科学研究（政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業））に関する協力依頼

厚生労働省

雇用均等・児童家庭局保育課

時下、ますますご清祥のことと存じます。

この度、厚生労働省平成 19 年度厚生科学研究費補助金（政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業））「少子化社会における保育環境のあり方に関する総合的研究（H19-政策一般-017）」を白梅学園大学民秋言教授に委託し、研究を実施することとなりました。

つきましては、当該研究事業の主旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。





## B 0歳児の保育室について

(0歳児の保育室が複数ある場合は、そのうちのいずれか1つの保育室についてお答えください。  
また、年齢混合の保育室の場合は、0歳児が含まれる保育室のいずれか1つについてお答えください)

Q 1. この保育室で主に生活する子どもの人数をお答えください。

0歳児\_\_\_人 1歳児\_\_\_人 2歳児\_\_\_人 その他\_\_\_歳児\_\_\_人 合計\_\_\_人

Q 2. 次の各活動を行うのは、この保育室が多いですか。それとも他の部屋を利用することが多いですか。

1を選んだ場合、その利用の仕方をお選びください。

2を選んだ場合、その理由をお書きください。

食 事 1. 主としてこの保育室を利用している (a. 区切って他の活動と共用 b. 区切らず使用)  
2. 主として他の部屋などを利用している (理由 \_\_\_\_\_)

睡 眠 1. 主としてこの保育室を利用している (a. 区切って他の活動と共用 b. 区切らず使用)  
2. 主として他の部屋などを利用している (理由 \_\_\_\_\_)

排 泄 1. 主としてこの保育室を利用している (a. 区切って他の活動と共用 b. 区切らず使用)  
2. 主として他の部屋などを利用している (理由 \_\_\_\_\_)

衣服の着脱 1. 主としてこの保育室を利用している (a. 区切って他の活動と共用 b. 区切らず使用)  
2. 主として他の部屋などを利用している (理由 \_\_\_\_\_)

清潔 (沐浴、清拭等) 1. 主としてこの保育室を利用している (a. 区切って他の活動と共用 b. 区切らず使用)  
2. 主として他の部屋などを利用している (理由 \_\_\_\_\_)

遊び (外遊びを除く) 1. 主としてこの保育室を利用している (a. 区切って他の活動と共用 b. 区切らず使用)  
2. 主として他の部屋などを利用している (理由 \_\_\_\_\_)

Q 3. この保育室の床面積は \_\_\_\_\_ m<sup>2</sup> または 畳 \_\_\_\_\_ 畳分

Q 4. 上記の保育室の床の上に置いてある備品 (いつも床の上に置いてあるもの) には何がありますか。

該当するものすべてに○をつけてください。(複数回答可)

1. タンス
2. 布団入れ
3. 子どもの個人用ロッカー
4. ベッド (\_\_\_台)
5. タオルかけ
6. 教材入れ
7. 遊具の収納棚
8. 連絡ボード台
9. おむつ交換台
10. 汚物などを入れる棚
11. 大人用の机
12. 大人用のロッカー
13. 掃除道具入れ
14. 食事用机椅子 (ベビー用ラックを含む)
15. ピアノ・オルガン
16. テレビ
17. その他 ( \_\_\_\_\_ )

\*上記備品が占有している床面積は およそ \_\_\_\_\_ m<sup>2</sup> または 畳 \_\_\_\_\_ 畳分





